

令和4年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護学実習 I	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (45)	開講時期	1 年後期
担当教員： 堀 寿美枝 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 看護師としての実務経験と看護教員としての経験を活かし、看護職の役割と機能について教授している。					
《科目目標》 実習目的：講義で学んだ看護の機能や基礎看護技術の知識・技術やその考え方を基に、病院における看護師の役割を理解する。また患者の療養生活環境を知り、患者とのコミュニケーションや援助を通して、看護師として大切にしたいことを考える。					
《成績評価の方法》 実習評価表に基づき評価する。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 ① ナーシンググラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版 ② 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA 他					
《授業外における学習方法》 事前学習、課題学習					
《履修に当たっての留意点》 臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかりと受講し、事前準備を万全にして臨んでください。					
実習プログラム					
実習期間	1 学年 9 月～10 月				
時間数	合計 45 時間				
実習内容	1. 病院における看護師の役割を理解する 2. コミュニケーション技術を意識して、患者と関わることができる 3. 患者の状態に合わせた援助がどのように実施されているかを学び、患者の思いに沿いながら援助を考えることができる 4. 看護について考えたことをまとめる 5. 看護者として望ましい態度とは何かを考え、行動する				

令和4年度 授業計画（シラバス）

科目名	基礎看護学実習Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	1 学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	1 年後期
担当教員： 上田 麻衣 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 看護師として看護業務に携わった教員が教授している。					
《科目目標》 患者を受けもち、コミュニケーション技術を用いて援助的な人間関係を形成する。ヴァージニア・A. ヘンダーソンの看護理論を用いて看護過程の基礎的部分を展開し、患者の全体像を捉え、健康障害や患者の気持ち、強みやニーズを考えた看護援助を実施する。振り返りから援助が患者に及ぼす影響を多角的に考える力を身につけ、よりよい看護を目指し看護の「個別性」とは何かを考える機会としていく。 そして、これまでの実習を通じた学びから、初期段階における看護に対する自己の考えをもち今後の自己の看護についての示唆となるようにする。 また、主体的に学ぶ姿勢や専門職として望ましい態度を身につけていき、グループメンバーと協同することで情報共有やお互いを尊重して関わる大切さの必要性に気づき、さらに、グループメンバー・病院スタッフ・教員との連携が円滑に行えるよう自ら働きかけることで多職種連携に求められる基礎的な能力を身につけていく。					
《成績評価の方法》 実習評価表に基づき評価する。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 人体の構造と機能・疾病と治療・薬理学・基礎看護技術などの講義で使用した教科書 参考書・資料					
《授業外における学習方法》 実習に関連する講義の内容を振り返り、理解する。 基礎看護技術の講義で既習している看護技術は、積極的に練習する。					
《履修に当たっての留意点》 実習オリエンテーションの内容について理解し、主体的に実習に臨む。 臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につけられる機会となるため、実習に参加できるよう健康管理に留意し臨む。					
実習プログラム					
実習期間	1 学年 1 月				
時間数	合計 90 時間				
実習内容	1. コミュニケーション技術を用いて、援助的な人間関係を築くことができる 2. 患者の全体像をとらえ、必要な看護を考える 3. 患者に必要な看護援助が実施できる 4. 看護に対する考えを述べることができる 5. 看護専門職者として望ましい態度を身につける				

令和4年度 授業計画（シラバス）

科目名	地域・在宅看護論実習 I	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (45)	開講時期	1 年後期
担当教員： 井上 亜希		実務経験のある教員による授業			<input checked="" type="checkbox"/>
在宅看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している					
<p>《科目目標》</p> <p>地域の特性と生活の視点から地域で生活するあらゆる年齢の人と支援から地域全体をとらえる力を身につけ、フォーマル・インフォーマルな社会資源について学ぶ。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>実習評価表（ループリック）に基づき評価する。</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>授業で使用した教科書、資料等</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>事前学習、課題学習を行う</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかり受講し、事前準備を万全にして臨んでください。</p>					
<p>実習プログラム</p>					
実習期間	1 学年後期				
時間数	合計 45 時間				
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の特性を理解する 2. 地域で生活する人の暮らしとフォーマルな社会資源・インフォーマルな社会資源について理解する 3. 実習で体験したことを振り返り、地域で生活する人と暮らしを理解する 4. 看護学生として責任ある行動がとれる 				

令和4年度 授業計画 (シラバス)

科目名	地域・在宅看護論実習Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	3学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	3年全期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 在宅看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している					
<<科目目標>> 地域で生活する人に対する地域保健活動と地域で療養する人への看護実践を通して、看護師としての思考力、判断力の基礎的能力を養う。地域包括ケアシステムの一員として看護の役割を理解し、多職種と協働し地域と連携する力を身につける					
<<成績評価の方法>> 実習評価表（ルーブリック）に基づき評価する。					
<<使用教材（教科書）及び参考図書>> 授業で使用した教科書、資料等					
<<授業外における学習方法>> 事前学習、課題学習を行う。					
<<履修に当たっての留意点>> 臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかり受講し、事前準備を万全にして臨んでください。					
実習プログラム					
実習期間	3学年5月～11月				
時間数	合計90時間				
実習内容	1. 地域で生活する人々の健康回復・保持・増進、疾病予防のための地域保健活動を理解する 2. 在宅で生活する療養者と家族を生活の主体者として理解する 3. 健康障害を持ちながら在宅生活する療養者への支援を理解する 4. 在宅介護の維持・向上に必要な家族に対する生活支援を理解する 5. 地域包括ケアシステムの機能について理解する 6. 訪問看護のあり方を考察する 7. 看護者としての適切な態度を身につける				

令和4年度 授業計画（シラバス）

科目名	成人・老年看護学実習 I	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	2 学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	2 年後期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 老年看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している。					
《科目目標》 地域で暮らす高齢者との関わりを通して、保健・医療・福祉チームの一員としての看護師の役割を学ぶとともに、予防的な視点を持ちながら高齢者が持てる力を発揮し、生き生きと暮らしていけるための知識・技術・態度を身につける。					
《成績評価の方法》 実習評価表に基づき評価する					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 授業で使用した教科書、資料等					
《授業外における学習方法》 実習に関わる講義の内容を理解しておく。 特に加齢変化の特徴や高齢者の生きてきた時代背景について授業資料や文献を活用し、理解を深めておく。					
《履修に当たっての留意点》 複数の施設で学ぶことができる機会である為、体調を整え、主体的に参加する姿勢を持つ。					
実習プログラム					
実習期間	2 学年後期				
時間数	合計 90 時間				
実習内容	1. 介護保険施設で生活する高齢者の身体面、心理面、社会面の特徴と看護を理解する。 2. 介護保険施設の機能と役割、多職種との連携を理解する。 3. 予防の視点を持ち、施設入居者の生活機能に合わせた看護を実践する。 4. 自宅から通所施設に通う高齢者の特徴を理解する。 5. 通所施設の機能と役割、多職種との連携を理解する。 6. 予防の視点を持ち、通所施設利用者個々の状況を考えた看護を実践する。 7. グループホームの機能と役割、多職種との連携を理解する。 8. 認知症高齢者の特徴と看護を理解する。 9. 高齢者における看護のあり方について考察する。				

令和4年度 授業計画 (シラバス)

科目名	成人・老年看護学実習Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	2 学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	2 年後期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 成人看護に携わった教員及び臨床看護師が教授している					
《科目目標》 成人・老年期の対象の特徴を踏まえ、様々な健康レベルにあり治療の場に入院する対象の全人的理解に努める。また、既習の慢性期・回復期・終末期の経過別看護の視点をもって、問題解決のための過程を理解する。既習の知識・技術の統合あるいは新たな学習により、必要な看護を実践し、評価することを学ぶ。 上記の学習を学生間で協力して学び、実習メンバー間の情報の共有や協調・協力できる力を養う機会とする。					
《成績評価の方法》 実習評価表に基づき評価する					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 各講義で使用した教科書や配布資料					
《授業外における学習方法》 対象の病期の看護の特徴について授業内容を復習すること					
《履修に当たっての留意点》					
実習プログラム					
実習期間	2 学年後期				
時間数	合計 90 時間				
実習内容	1. 成人・老年期にある対象とその家族を理解する 2. 対象の健康状態やセルフケア能力に応じた支援・援助を行う 3. 対象および家族を支える看護師と他職種の役割、多職種連携について考える 4. 対象への看護を通して自己の看護観を養う 5. 看護者としての姿勢、態度を身につけ、自己の向上に努めることができる				

令和4年度 授業計画（シラバス）

科目名	成人・老年看護学実習Ⅲ	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	3学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	3年前期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 老年看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している。					
《科目目標》 実習目的：入院している対象を全人的にとらえ、健康上の課題を明らかにし、その人のもてる力を見出す思考を育て、看護実践能力を身につける。 また、継続看護の必要性とそれを支える多様な職種を理解する。					
《成績評価の方法》 実習評価表（評価基準表）に基づき評価する。					
《使用教材（教科書）及び参考図書》 生活機能からみた老年看護過程 医学書院 他					
《授業外における学習方法》 事前学習、課題学習を行う。					
《履修に当たっての留意点》 臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかり受講し、事前準備を万全にして臨んでください。					
実習プログラム					
実習期間	3学年5月～7月				
時間数	合計90時間				
実習内容	1. 加齢変化、疾病・治療の状況を把握し、生活への影響を捉える 2. 患者及び家族の意向・生活に焦点を当てた目標設定をする 3. 対象のもてる力が引き出されるような看護を実践をする 4. 高齢者の生活と健康を支える多様な職種を理解する 5. 自分の老年看護観を持つ 6. 看護専門職者として望ましい態度を身につける				

令和4年度 授業計画 (シラバス)

科目名	成人・老年看護学実習Ⅳ	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	3 学年	単位 (時間)	2 (90)	開講時期	3 年全期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 成人看護に携わった教員及び臨床看護師が教授している。					
《科目目標》 1. 周手術期にある対象の全身状態の改善を図り、回復力を高めるとともに、対象のセルフケア能力を引き出し、自立へと援助するための基礎的知識・技術・態度を養う 2. ICU・ERICUにおける対象の特徴と看護の実際を知り、生命の危機的状況にある人を支える看護師の役割について考える。					
《成績評価の方法》 実習評価表に基づき評価する。					
《使用教材 (教科書) 及び参考図書》 講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護 1, 2, 3 : 医歯薬出版					
《授業外における学習方法》 事前学習を行う					
《履修に当たっての留意点》 1. 提示された事前課題に積極的に取り組み、実習に活用できるように理解する。 2. 事前学習をもとに、患者の個別性が理解できるように実習記録に積極的に取り組む。 3. 患者の術後経過に応じ、異常の早期発見・合併症の予防ができるよう必要な看護について考え実践する。					
実習プログラム					
実習期間	3 学年 5 月～11 月				
時間数	合計 90 時間				
実習内容	1. 周手術期にある患者とその家族の心理状態を理解する。 2. 患者の病態および治療方法を理解し看護の方向性がわかる 3. その人らしさを考えながら、全身状態の改善を図り、回復力を高めるとともに、対象のセルフケア能力を引き出し、自立に向けての支援を実施できる 4. 周手術期における多職種連携を理解する 5. 周手術期にある人を支える看護師の役割を考えることができる 6. ICU・ERICU での看護師の役割を理解する 7. 看護者にとって必要な態度を身につける				

令和4年度 授業計画（シラバス）

科目名	母性看護学実習	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	3 学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	3 年全期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 周産期看護業務に携わった教員及び臨床助産師が教授している。					
≪科目目標≫ 正常な妊娠・分娩・産褥および新生児期の対象に適した看護援助を学ぶ。					
≪成績評価の方法≫ 実習評価表に基づき評価する。					
≪使用教材（教科書）及び参考図書≫					
≪授業外における学習方法≫ 事前学習、課題学習を行う。					
≪履修に当たっての留意点≫ 臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかり受講し、事前準備を万全にして臨んでください。					
実習プログラム					
実習期間	3 学年 5 月～12 月				
時間数	合計 90 時間				
実習内容	1. 妊婦の特徴と看護を理解する 2. 産婦の特徴および分娩の経過と看護を理解する 3. 褥婦・新生児の特徴を理解し、看護を実践する 4. 母性看護における看護師の役割を理解する				

令和4年度 授業計画（シラバス）

科目名	小児看護学実習	科目区分	専門分野Ⅱ	授業の方法	実習
対象学年	3学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	3年全期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 小児看護業務に携わった教員が教授している					
≪科目目標≫ 子どもの成長発達段階の特徴を理解したうえで、個々の健康状態に応じて、子どもと家族が生き生きと生活できるように支援するための基礎的な能力を養い、子どもの最善の利益を守る看護について考える					
≪成績評価の方法≫ 実習評価表に基づき評価する					
≪使用教材（教科書）及び参考図書≫					
≪授業外における学習方法≫ 事前学習・事前準備を行う					
≪履修に当たっての留意点≫ プロジェクト学習を取り入れています。実習に対して自ら目標をもち、課題を解決するために何を準備したらよいかを考え、主体的に臨んでください 臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会となります。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかり受講し、事前準備を万全にして臨んでください					
実習プログラム					
実習期間	3学年5月～12月				
時間数	合計90時間				
実習内容	1. 健康な乳幼児の成長と発達に応じた支援の実際を知る 2. 患児の成長発達と患児を取り巻く環境を理解し、患児と家族を尊重したかわりを行う 3. 患児の健康障害を理解し、病状に応じた必要な看護について考える 4. 子どもの安全を守るために必要な看護を実践する 5. 地域で生活する子どもの健康を守る支援について知る 6. 小児看護における看護師の役割について述べる 6. ハイリスク新生児の特徴とNICU（新生児センター）での看護の実際を知る				

令和4年度 授業計画 (シラバス)

科目名	精神看護学実習	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	3 学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	3 年前期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 精神看護学業務に携わった教員が教授している					
≪科目目標≫ 精神に障害を持つ人の治療環境・患者 - 看護師関係における治療的関りを体験を通して学ぶ					
≪成績評価の方法≫ 実習評価表に基づき評価する。					
≪使用教材 (教科書) 及び参考図書≫					
≪授業外における学習方法≫					
≪履修に当たっての留意点≫					
実習プログラム					
実習期間	3 学年 5 月～7 月				
時間数	合計 90 時間				
実習内容	1. 精神に障害を持つ人の治療環境を理解する 2. 精神に障害を持つ人との患者 - 看護師関係における治療的な関りを体験を通して学ぶ 3. 精神に障害を持つ人を理解し、必要な看護を考察することができる 4. 精神保健活動における看護師の役割と社会復帰の現状について理解できる				

令和4年度 授業計画 (シラバス)

科目名	総合実習	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	3 学年	単位(時間)	3 (135)	開講時期	3 年後期
担当教員： 専任教員 実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/> 病棟での看護業務に携わった教員及び臨床看護師が教授している					
《科目目標》 複数患者の退院後を見据えた情報を収集し、メンバーと協力し計画的に援助することを学ぶ。受け持ち患者の優先順位を考え、多重課題への対応も話し合いながら、その時々に応じた状況を捉え、判断し実践につながるような思考を身につけていく。実施後には1つ1つの現象からリフレクション(気づき・解釈・反応・省察)し実践する力につなげていく。 複数受け持ち・同行・夜間実習を通し、チーム内でのリーダーシップやメンバーシップ、役割遂行や多職種連携を学ぶ。また多職種連携から看護師の役割について考える。看護管理としてミドルマネージャーである師長が部署の責任者として他部門との連携・調整をどのように行っているのか、またチームを率いるリーダーがリーダーシップ役割をどのように果たし、チームを有効に機能させているのか学ぶ機会を持つ。そして総合実習が3年間の自分の看護を統合でき、これからの自分の看護に繋がることを願っている。					
《成績評価の方法》 実習評価表に基づき評価する。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 ナーシンググラフィカ 看護学概論・看護管理 メディカ出版					
《授業外における学習方法》 実習する病棟の特徴を理解し、疾患・看護の事前学習を行う					
《履修に当たっての留意点》 チームで取り組む実習であるため、グループでコミュニケーションを密に行い、情報の共有を図っていく。					
実習プログラム					
実習期間	3 学年 10 月～12 月				
時間数	合計 135 時間				
実習内容	1. チームで複数患者を受け持ち、患者の1日の生活リズムを考えながら、病態、治療を踏まえ、退院後を見据えた看護計画を立案し、計画的に援助ができる。 2. 1つ1つの現象からリフレクション(気づき・解釈・反応・省察)し、自己の看護実践について考え、判断していく能力を高めていく。 実習前後における自己の成長について振り返り、到達度・達成度について考え、これからの課題を明らかにする。 3. 学生のチーム内でリーダー・メンバーを行い、それぞれの役割を果たしながら看護が実施できる。 4. 同行・夜間実習からチーム内でのリーダーシップやメンバーシップを学ぶ。 5. 同行や夜間実習から看護援助の実際を理解する。				

	<ol style="list-style-type: none">6. 多職種連携について理解する。7. 看護管理について病棟師長から部署の管理者として多職種との連携・調整の実際について話を聞き学ぶ。8. 実習での学びから自分の考える複数患者への看護実践について述べるができる。
--	--